

平成27年2月期 決算参考資料

米久株式会社
(東証一部：2290)

1. 当期業績に影響を与えた主な項目

- 1) 食肉相場の堅調な推移
- 2) 販売体制の強化、創業50周年記念キャンペーンの実施
- 3) 主力加工品・ブランドミートの販売増加
- 4) 生産性の改善・物流の効率化
- 5) 販売価格の改定
- 6) 原材料価格の高騰、円安の進行
- 7) 物流費・ユーティリティ費用の増加

2. 当期(平成26年3月1日～平成27年2月28日)の連結業績

(単位:百万円)

	平成26年2月期	平成27年2月期	伸び率(%)	前回(1/6)予想
売上高	144,154	155,082	7.6	150,000
営業利益	1,989	5,240	163.4	4,700
経常利益	1,837	5,878	219.9	5,200
税引前利益	1,756	5,936	238.0	-
当期純利益	896	4,010	347.4	3,600
一株当たり当期純利益(円)	35.33	158.10	-	-
自己資本当期利益率(%)	2.4	10.2	-	-

3. 連結業績の推移

(単位:百万円)

	平成23年2月期	平成24年2月期	平成25年2月期	平成26年2月期	平成27年2月期
売上高	136,049	140,796	142,372	144,154	155,082
営業利益	1,917	1,717	484	1,989	5,240
経常利益	1,999	2,018	322	1,837	5,878
税引前利益	1,943	2,396	2	1,756	5,936
当期純利益	1,220	1,359	△221	896	4,010
純資産	37,756	37,430	36,050	37,349	41,443
総資産	61,262	63,610	61,146	62,834	71,839
一株当たり純資産:(円)	1,360.30	1,405.95	1,418.86	1,470.02	1,631.49
一株当たり当期純利益:(円)	44.04	49.62	△8.64	35.33	158.10

4. 報告セグメント別の業績比較

(単位:百万円)

	平成26年2月期		平成27年2月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
報告セグメント				
加工品事業	61,469	1,426	64,798	2,209
食肉事業	80,546	554	88,313	3,118
小計	142,016	1,980	153,112	5,327
その他	2,138	8	1,970	△87
連結財務諸表計上額	144,154	1,989	155,082	5,240

5. 連結子会社一覧

(単位:百万円)

会社名	持分割合 (%)	売上高	総資産	事業内容
米久かがやき(株)	100.0	24,838	7,754	ハム・ソーセージ・デリカ製品の製造
(株)日宏食品	100.0	2,296	687	ソーセージの製造
米久デリカフーズ(株)	100.0	7,459	3,437	冷凍デリカ製品の製造・販売
国内加工品生産会社計		34,594	11,879	
YONEKYU U.S.A.,INC.	100.0	2,767	1,357	ソーセージの製造
海外加工品生産会社計		2,767	1,357	
米久おいしい鶏(株)	100.0	12,599	5,400	鶏肉の生産・加工・販売
(株)マルフジ	100.0	2,690	325	牛肉の加工・販売
アイ・ポーク(株)	100.0	4,624	637	豚肉の加工・販売
大洋ポーク(株)	100.0	3,852	874	豚肉の生産・加工・販売
(農)広島県東部養豚組合	-	1,620	1,197	養豚
食肉供給会社計		25,387	8,435	
御殿場高原ビール(株)	84.8	1,561	752	地ビールレストランの経営
その他の会社計		1,561	752	
< 連結子会社合計 >		64,311	22,425	

持分法適用関連会社2社

- ・MIY(株)
- ・ときめきファーム(株)

6. 当期業績

(1)売上高

加工品事業では、ハム等は、ロースハムの製造ラインを増設して拡販に注力、主力商品のベーコン・焼豚・ローストビーフ等も好調に推移しました。ソーセージは、創業50周年記念キャンペーンも奏功し、コンシューマ商品の「御殿場高原あらびきポーク」や「あらびきフランク」が伸長しました。デリカは、トンカツ・ミートボール・春巻等の売上増に加え、「米久の肉だんご 黒酢たれ」のテレビコマーシャルを新たに投入し、積極的な拡販を行いました。

食肉事業では、食肉相場が前年を上回る水準で推移し、生産事業の収益が増加しました。また、「六穀豚」「大地のハーブ鶏」「岩手めんこい黒牛」等のブランドミートの拡販、簡便性の高い一次加工品「マザーシェフ」の販促などに取り組むとともに、採算性を重視した営業活動に注力しました。以上の結果、当期の売上高は、加工品事業は647億98百万円、食肉事業は883億13百万円となり、全体では前期に比べ109億28百万円増加し、1,550億82百万円（7.6%増）となりました。

(2)売上総利益

原材料価格が高騰したものの、加工品の販売価格の改定や、採算改善に関する種々取り組みも奏功し、売上総利益は前期に比べ増加しました。

以上の結果、当期の売上総利益は、前期に比べ34億73百万円増加し、233億1百万円（17.5%増）となりました。

(3)営業利益

物流費などが増加しました。

以上の結果、当期の営業利益は、加工品事業で22億9百万円（前期は14億26百万円）、食肉事業で31億18百万円（前期は5億54百万円）となり、全体では32億51百万円増加し、52億40百万円（前期は19億89百万円）となりました。

(4)経常利益

営業外収益は前期に比べ2億90百万円増加、営業外費用は持分法による投資損益が4億55百万円改善し、4億99百万円の減少となりました。

以上の結果、当期の経常利益は、前期に比べ40億41百万円増加し、58億78百万円（前期は18億37百万円）となりました。

(5)当期純利益

特別利益は、前期に比べ8百万円減少し、特別損失は、1億47百万円減少となりました。

以上の結果、当期の純利益は、40億10百万円（前期は8億96百万円）となりました。

7. 次期の主な取組み

- 1) 第5次中期経営計画における種々施策の実行
- 2) 販売体制の拡充、創業50周年記念キャンペーンの継続
- 3) 首都圏事務所の移転・首都圏開発室の新設
- 4) 製造能力の増強・販売拡大
- 5) 食肉事業の強化
- 6) 生産性の改善、物流の効率化、リスク管理の徹底

※ 国産食肉相場(2014→2015年度): 豚 541→457、牛 1,231→1,296、鶏 478→454 (円/kg)

8. 次期業績予想

(単位:百万円)

	上 期		通 期	
	金 額	伸び率(%)	金 額	伸び率(%)
売 上 高	75,000	0.4	170,000	-
営 業 利 益	2,000	△ 12.5	4,700	-
経 常 利 益	2,000	△ 10.1	4,800	-
当 期 純 利 益	1,200	△ 21.5	2,600	-
一株当たり当期純利益(円)	47.30	-	102.48	-

(注1) 次期は決算期の変更(事業年度末日を2月末日から3月31日に変更)により、平成27年3月1日から平成28年3月31日までの13ヶ月決算となる予定のため、通期の対前期増減率は記載しておりません。